

ANCL

ShareTask 5.4

(doc#06)

ジョブ仲介サーバー (Hyper-V 版)
インストールマニュアル

アングル

2013/7/31

目次

1	概要	5
1.1	Hyper-V とは	5
2	インストール	5
2.1	インストール概要	5
2.2	Hyper-V をインストールするための CPU 要件	6
2.3	IP アドレスの準備	6
2.4	インストールメディアのディレクトリ構成	6
2.5	Hyper-V のインストール手順	7
2.6	ShareTask インストール手順	14
2.6.1	インストール先の決定	14
2.6.2	Windows Server 2012 に仮想マシンをインポートする手順	15
2.6.3	Windows Server 2008 R2 に仮想マシンをインポートする手順	22
2.6.4	仮想マシンの起動	28
2.6.5	仮想マシンへの接続	28
2.6.6	仮想マシンのネットワーク設定	30
2.7	トラブルシューティング	36

図目次

2.5.1	サーバーマネージャーの起動画面	7
2.5.2	役割と機能の追加選択画面	8
2.5.3	役割と機能の追加ウィザード起動画面	8
2.5.4	役割ベースまたは機能ベースのインストール画面	9
2.5.5	サーバープール画面	9
2.5.6	インストールする機能一覧画面	10
2.5.7	Hyper-V 機能追加確認画面	10
2.5.8	インストールする機能一覧画面	11
2.5.9	Hyper-V の説明画面	11

2.5.10	仮想スイッチの設定画面	12
2.5.11	仮想マシンの移行画面	13
2.5.12	仮想ハードディスクの保存画面	14
2.5.13	15
2.6.1	サーバーマネージャー起動画面	16
2.6.2	Hyper-V マネージャー起動画面	16
2.6.3	仮想マシンインポート画面	17
2.6.4	仮想マシンのインポートウィザード画面	17
2.6.5	インポートする仮想マシンの場所指定画面	18
2.6.6	インポートする仮想マシン選択画面	18
2.6.7	インポートの種類選択画面	19
2.6.8	仮想マシンのフォルダ指定画面	20
2.6.9	仮想ハードディスク保存フォルダ指定画面	20
2.6.10	サーバーマネージャー起動画面	22
2.6.11	Hyper-V マネージャー画面	23
2.6.12	仮想マシンの新規作成ウィザード	24
2.6.13	仮想マシンの名前と場所の指定	25
2.6.14	メモリの割り当て画面	25
2.6.15	ネットワークの構成画面	26
2.6.16	仮想ハードディスクの接続画面	27
2.6.17	仮想マシンの新規作成ウィザード完了画面	27
2.6.18	仮想マシンのインポート完了	28
2.6.19	仮想マシンの起動画面	29
2.6.20	仮想マシンの接続画面	29
2.6.21	仮想マシンのコンソール画面	30
2.6.22	ネットワークの設定画面	31
2.6.23	デバイスの設定画面	32
2.6.24	ネットワークの設定画面	33
2.6.25	DNS の設定画面	33
2.6.26	DNS サーバーの IP アドレス設定画面	34
2.6.27	DNS の設定画面	34

1 概要

ShareTask は、Web ベースのジョブスケジューラーです。本文書は、ジョブ仲介サーバーを Hyper-V へインストールする手順について説明します。

1.1 Hyper-V とは

Hyper-V とは、Windows 上に構築される仮想マシンで、ジョブ仲介サーバーはこの Hyper-V に CentOS をインストールすることで動作します。Hyper-V を利用するためには、Windows Server 上へ Hyper-V をインストールする必要があります。Hyper-V をインストールするためには、Intel VT や AMD-V といった仮想化機構をサポートした CPU が必要です。Hyper-V 上で仮想マシンを作成するには、仮想スイッチと仮想マシンの構成ファイル、仮想ハードディスクの 3 つが割り当てられます。仮想スイッチとは、ホスト OS やゲスト OS が外部とネットワークを行う時に利用する仮想のスイッチです。物理的な NIC の設定をコピーして利用します。この仮想スイッチは、Hyper-V をインストールするときに作成します。仮想マシンの構成ファイルとは、作成した仮想マシンの構成が記述された XML ファイルです。仮想ハードディスクとは、仮想マシン用のハードディスクです。サイズを可変にすることもできるため、容量が少ないコンピュータでも仮想マシンを作成できます。

2 インストール

2.1 インストール概要

このドキュメントは Hyper-V へのインストールを前提として記述されています。想定 OS は、Windows Server 2012 ですが、Hyper-V の環境を構築できる Windows Server であれば同様の手順で実行可能です。ただし、動作確認対象外となります。インストールの手順としては、まず最初に Windows Server 2012 に Hyper-V をインストールします。次に、ShareTask を Hyper-V へインストールします。ShareTask のインストールは、事前にエクスポートされた仮想マシンのファイルをインポートし、その後、仮想マシンへログインしてネットワーク関連の設定を行います。

2.2 Hyper-V をインストールするための CPU 要件

Hyper-V を利用するためには、CPU の仕様として Intel VT や AMD-V が必要です。使用しているコンピュータが仮想化機構を装備しているかどうかは msinfo32 コマンドで確認できます。

1. タスクバーから Windows Power Shell を起動します。
2. コマンドラインに msinfo32 と入力します。
3. システム情報ウィンドウが起動するので、一番下の Hyper-V の項目を確認します。以下の機能が有効になっているか確認します。

Hyper-V - VM モニターモード拡張機能

Hyper-V - 第2レベルアドレス変換拡張機能

Hyper-V - ファームウェアで仮想化が有効

Hyper-V - データ実行防止

この機能が無効になっている場合、Hyper-V をインストールすることはできません。BIOS の設定で無効になっている場合がありますので、BIOS の設定で有効にできないか確認してください。

2.3 IP アドレスの準備

Hyper-V にインストールする仮想マシン用に IP アドレスを新規に用意する必要があります。

2.4 インストールメディアのディレクトリ構成

インストールメディアのディレクトリ構成は次の通りです。

ShareTask

Virtual Hard Disk: Hyper-V 用 ShareTask の仮想ハードディスク

Virtual Machiens: Hyper-V 用 ShareTask の仮想マシンの設定ファイル

Snapshots: Hyper-V 用 ShareTask の仮想マシンのスナップショットファイル

2.5 Hyper-V のインストール手順

Hyper-V 版 ShareTask を動作させるためには、Hyper-V をインストールする必要があります。既に Hyper-V がコンピュータにインストールされている場合は、このセクションは飛ばしてください。

1. タスクバーからサーバーマネージャーを起動します。

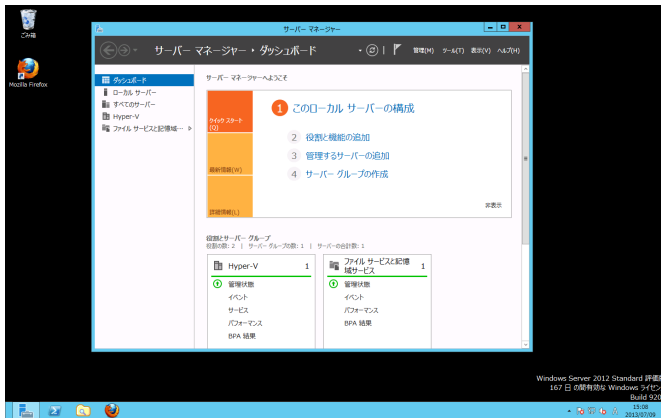


図 2.5.1 サーバーマネージャーの起動画面

2. ダッシュボードから [役割と機能の追加] を選択します。

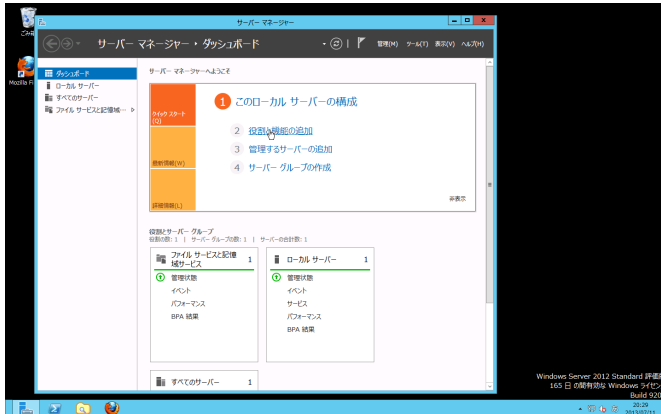


図 2.5.2 役割と機能の追加選択画面

3. 役割と機能の追加ウィザードが起動するので [次へ] ボタンを押します。

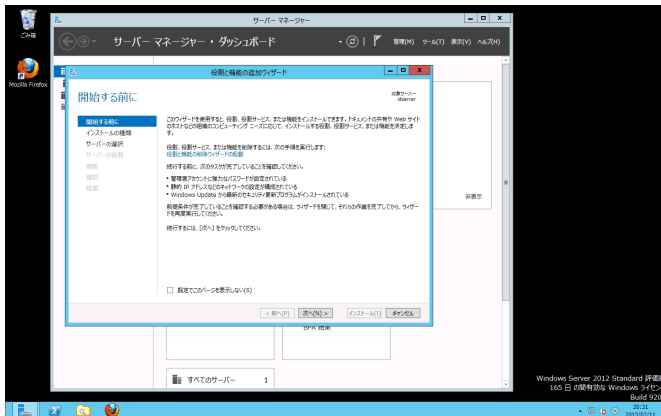


図 2.5.3 役割と機能の追加ウィザード起動画面

4. 役割ベースまたは機能ベースのインストールにチェックを入れて [次へ] ボタンを押します。

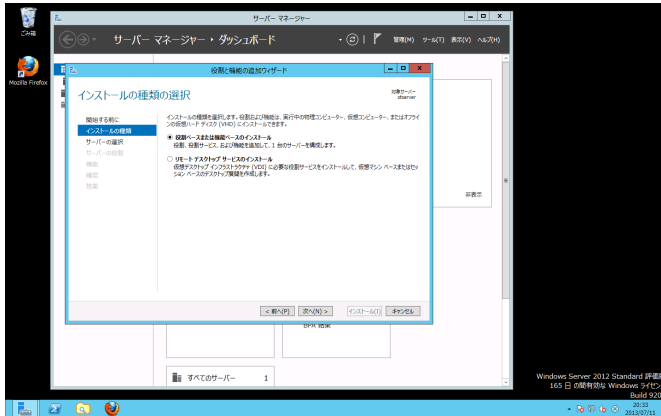


図 2.5.4 役割ベースまたは機能ベースのインストール画面

5. サーバプールからサーバーを選択して [次へ] ボタンを押します。

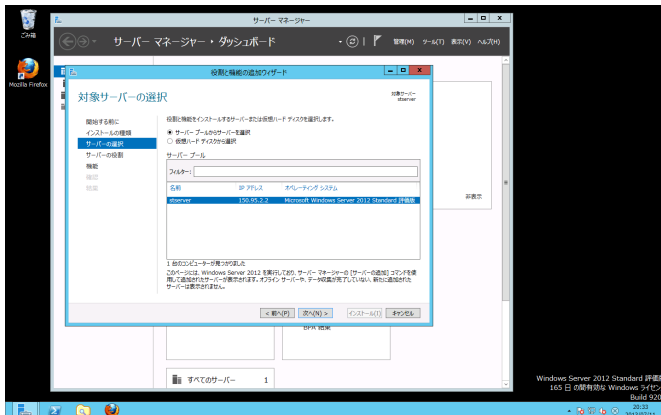


図 2.5.5 サーバプール画面

6. リストにある Hyper-V にチェックを入れます。

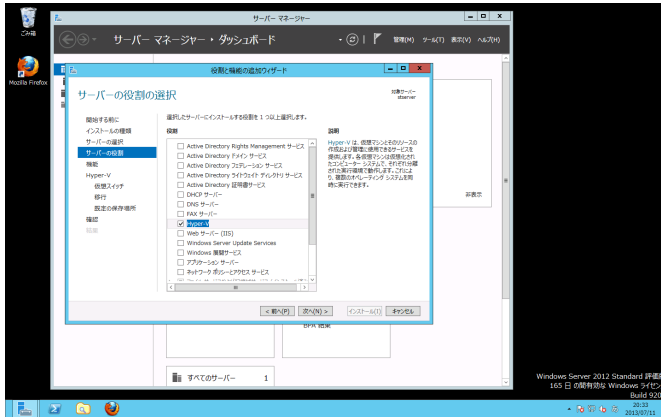


図 2.5.6 インストールする機能一覧画面

7. Hyper-V にチェックを入れるとすぐに次の画面が表示されるので、[機能の追加] ボタンを押します。

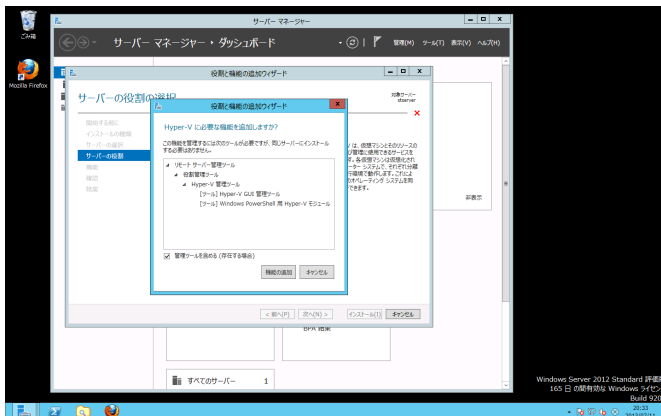


図 2.5.7 Hyper-V 機能追加確認画面

8. デフォルトのまま [次へ] ボタンを押します。

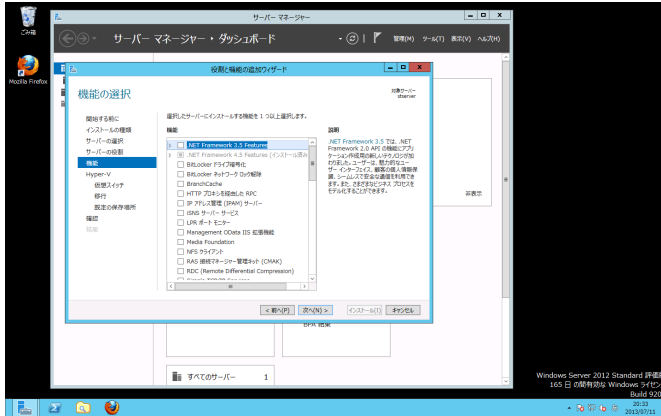


図 2.5.8 インストールする機能一覧画面

9. Hyper-V の説明が表示されるので、デフォルトのまま [次へ] ボタンを押します。

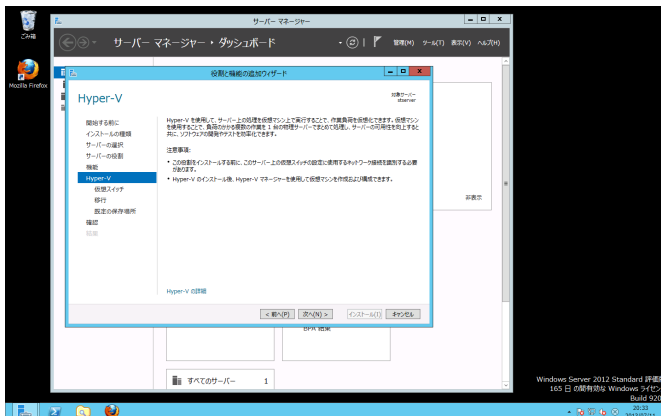


図 2.5.9 Hyper-V の説明画面

10. 仮想スイッチで使用するネットワークアダプターを設定します。仮想スイッチとはゲスト OS が外部と通信する時に利用する仮想的なスイッチです。仮想スイッチはネットワークアダプターの値をコピーして仮想スイッチを作成します。使用するアダプタにチェックを入れたら [次へ] ボタンを押します。



図 2.5.10 仮想スイッチの設定画面

11. 仮想マシンを稼働させたまま移行させる機能 (ライブマイグレーション) を利用する場合は、チェック欄にチェックを入れます。ここではデフォルトのまま [次へ] ボタンを押します。

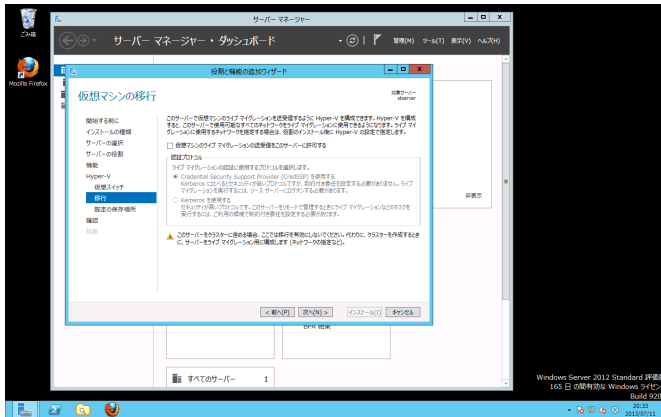


図 2.5.11 仮想マシンの移行画面

12. 仮想ハードディスクの保存場所と仮想マシンの構成ファイルの保存場所を設定します。ここでは仮想ハードディスクの場所を E:\Virtual Hard Disks\, 仮想マシンの構成ファイルを E:\Hyper-V\ とします。値を入力したら [次へ] ボタンを押します。

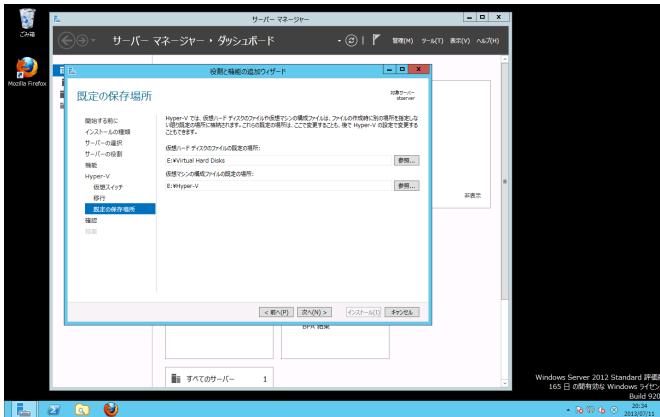


図 2.5.12 仮想ハードディスクの保存画面

13. インストールする内容を確認する. 問題なければ [インストール] を選択します. インストール後に自動的に再起動をしたい場合は, [必要に応じて対象サーバーを自動的に再起動する] にチェックを入れてください. 確認できたら [次へ] ボタンを押します.
14. インストール完了後、コンピュータを再起動してログインするとサーバーマネージャの左ペインに Hyper-V が項目として追加されているか確認する. 追加されていれば Hyper-V のインストールは完了しています.

2.6 ShareTask インストール手順

Hyper-V のインストールが完了したら, ShareTask のインストール作業を行います.

2.6.1 インストール先の決定

まず, Hyper-V 版 ShareTask のインストール先を決定します. Hyper-V の仮想マシンは, 仮想マシンの構成ファイルと仮想ハードディスクの 2 つに分かれています. これらを別々の場所に保存できるようになっており, インストール時に場所を指定することができます.

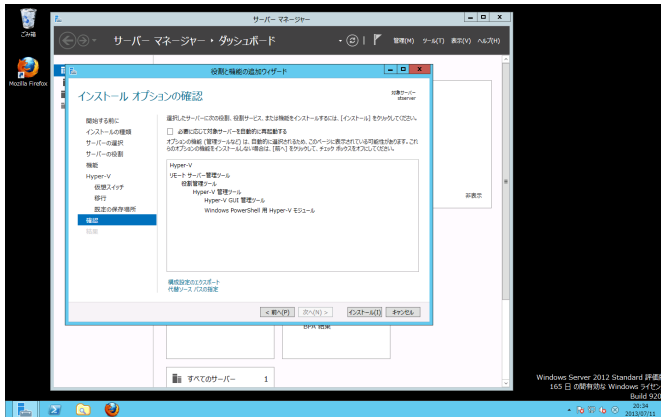


図 2.5.13

ここではインストール先の仮想マシンの構成ファイルを `E:\Hyper-V\`、仮想ハードディスクを `E:\Virtual Hard Disks\` として説明します。付属 DVD-ROM 内の zip 圧縮されたプログラムファイルを作業用のディレクトリにコピーします。ここでは作業用のディレクトリを `E:\Export\CentosShareTask` とします。

仮想マシンのインポート手順は、Windows Server 2012 と Windows Server 2008 R2 とで異なります。最初に、Windows Server 2012 に仮想マシンをインポートする手順を説明します。

2.6.2 Windows Server 2012 に仮想マシンをインポートする手順

1. サーバーマネージャーを起動します。
2. メニューバーの [ツール] から [Hyper-V マネージャー] を選択します。

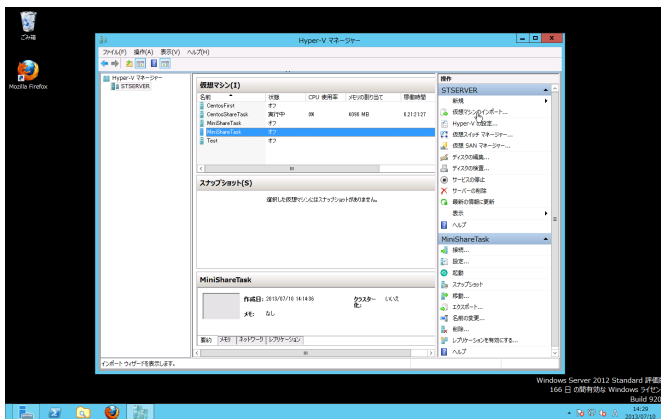


図 2.6.3 仮想マシンインポート画面

ます。

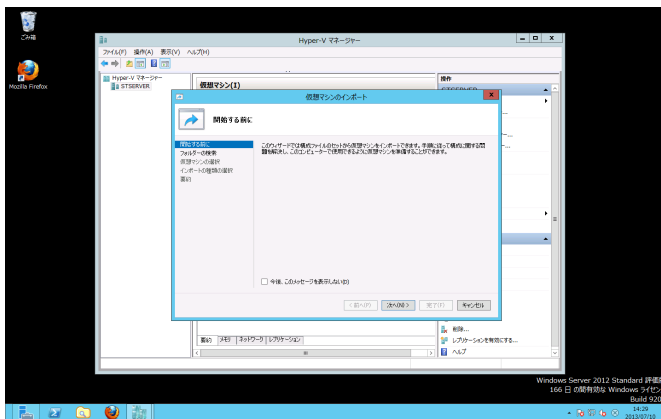


図 2.6.4 仮想マシンのインポートウィザード画面

5. インポートする仮想マシンの場所を指定します. ここでは付属 DVD-ROM から展開した場所である E:\Export\CentosShareTask を指定します.

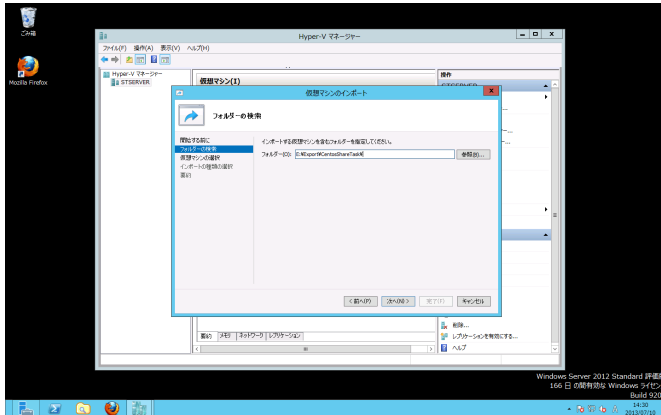


図 2.6.5 インポートする仮想マシンの場所指定画面

6. インポートする仮想マシンを選択して [次へ] ボタンを押します.

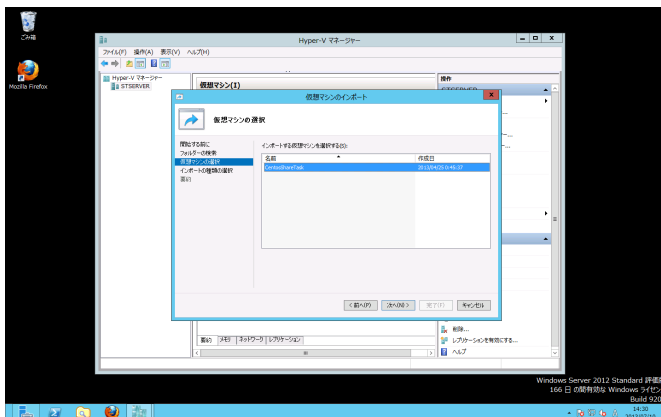


図 2.6.6 インポートする仮想マシン選択画面

- [次へ] ボタンを押します.

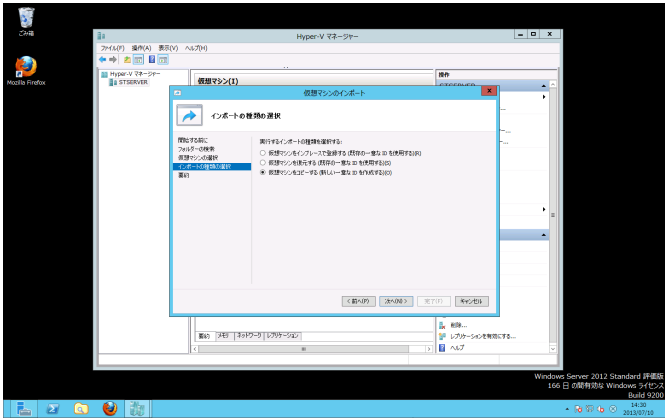


図 2.6.7 インポートの種類選択画面

- のように指定します。設定できたら [次へ] ボタンを押します。

仮想マシンの構成フォルダー

E:\Hyper-V\

スナップショットストア

E:\Hyper-V\

スマートペーシングフォルダ

E:\Hyper-V\

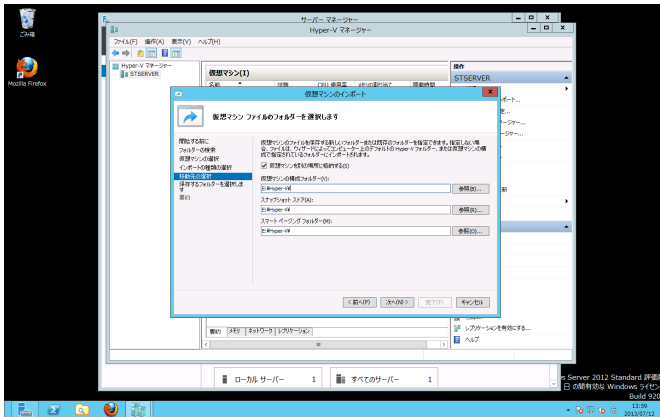


図 2.6.8 仮想マシンのフォルダ指定画面

9. 仮想ハードディスクを保存するフォルダを指定します。ここでは E:\Virtual Hard Disks\を指定します。指定できたら [次へ] ボタンを押します。

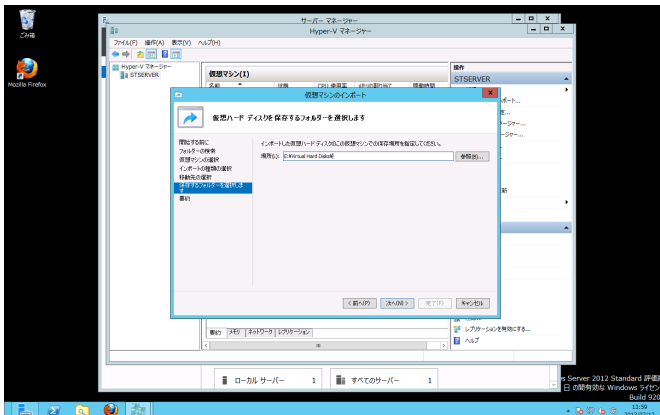


図 2.6.9 仮想ハードディスク保存フォルダ指定画面

10. インポートウィザードが表示されるので、最終的な設定を確認して [次へ] ボタンを押します。
11. Hyper-V マネージャーの仮想マシンの項目に表示されていれば、インストールは完了しています。

次に、Windows Server 2008 R2 に仮想マシンをインポートする手順を説明します。

Windows Server 2008 R2 を使用している場合、仮想マシンをそのままインポートすることはできません。Windows Server 2012 と Windows Server 2008 R2 とでは、仮想マシンをエクスポートした時のフォーマットが異なるためです。しかし、仮想ハードディスクの互換性があります。そこで、最初に新規に仮想マシンの作った後、既存の仮想ハードディスクを指定するという手順でインポートを行います。

2.6.3 Windows Server 2008 R2 に仮想マシンをインポートする手順

1. サーバーマネージャーを起動します。

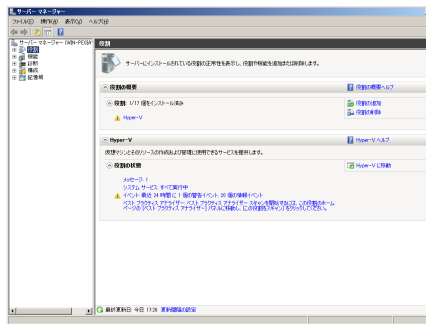


図 2.6.10 サーバーマネージャー起動画面

2. 左ペインの [役割] のツリーを選択し, [Hyper-V マネージャー] の下の仮想マシンを選択する.

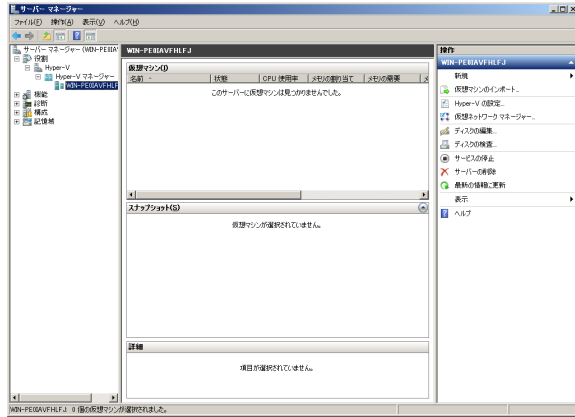


図 2.6.11 Hyper-V マネージャー画面

3. 右の [操作] ペインから [新規] をクリックすると, 対象が表示されるので [仮想マシン] を選択します.

4. 仮想マシンの新規作成ウィザード画面が表示されるので、[次へ] ボタンを押します。



図 2.6.12 仮想マシンの新規作成ウィザード

5. 仮想マシンの名前と場所を指定する画面が表示されるので、[名前] に仮想マシンの名前を入力します。仮想マシンをデフォルトとは別の場所に保存したい場合は、[仮想マシンを別の場所に格納する] にチェックを入れて、[場所] に仮想マシンの保存場所を指定します。ここでは、以下のように指定します。入力完了したら、[次へ] ボタンを押します。

名前

ShareTask

場所

F:\Hyper-V\ShareTask\

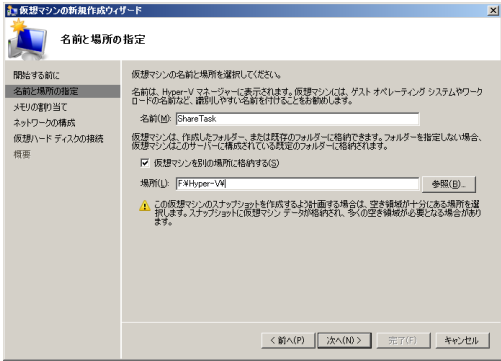


図 2.6.13 仮想マシンの名前と場所の指定

6. メモリの割り当て画面が表示されるので、使用するメモリ量を指定します
ここでは 2048 を指定します。指定できたら [次へ] ボタンを押します。

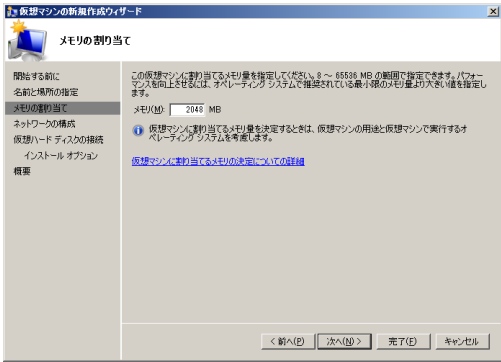


図 2.6.14 メモリの割り当て画面

7. ネットワークの構成画面が表示されるので, [接続] にローカルエリア接続-仮想ネットワークを指定します. 指定できたら [次へ] ボタンを押します.

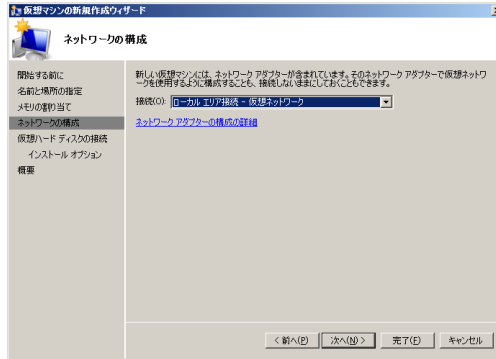


図 2.6.15 ネットワークの構成画面

8. 仮想ハードディスクの接続画面が表示されるので, [既存のハードディスクを使用する] にチェックを入れて, 付属 DVD から展開した仮想ハードディスクを指定します. E:\Export\CentosShareTask に展開した場合, E:\Export\CentosShareTask\Virtual Hard Disks\ShareTask.vhd を指定します.

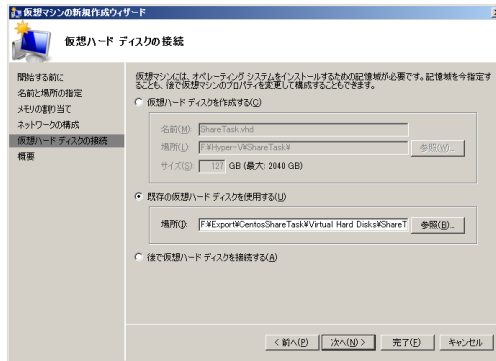


図 2.6.16 仮想ハードディスクの接続画面

9. 仮想マシンの新規作成ウィザードの完了画面が表示されるので、内容を確認します。問題なければ [完了] ボタンを押します。

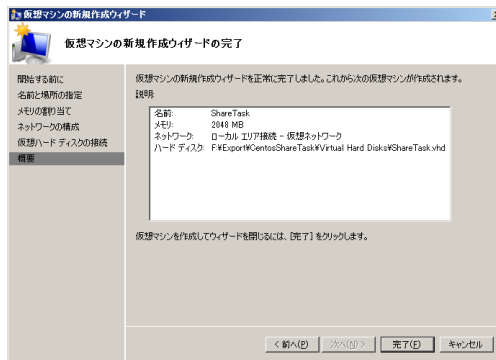


図 2.6.17 仮想マシンの新規作成ウィザード完了画面

10. Hyper-V マネージャーの仮想マシンの項目に表示されていれば、インストー

ルは完了しています。

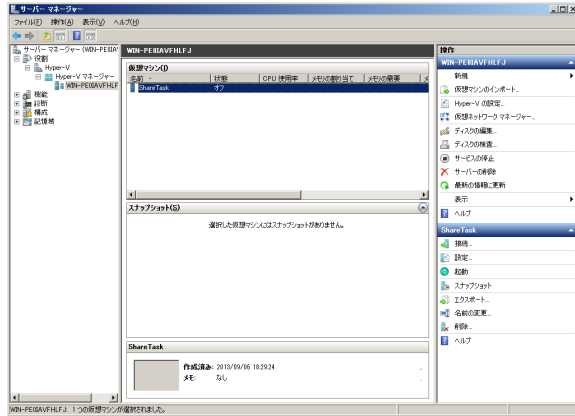


図 2.6.18 仮想マシンのインポート完了

2.6.4 仮想マシンの起動

仮想マシンのインポートが終了したら、仮想マシンを起動します。

1. インポートした仮想マシンを選択し、右の操作ペインから [起動] を選択します。
2. 選択した仮想マシンが [実行中] になれば起動は成功しています。

2.6.5 仮想マシンへの接続

仮想マシンの起動が終了したら、仮想マシンへ接続します。

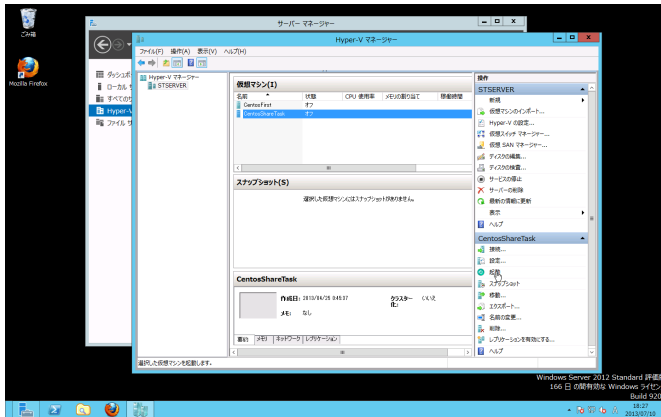


図 2.6.19 仮想マシンの起動画面

1. 右の操作ペインから接続を選択します。

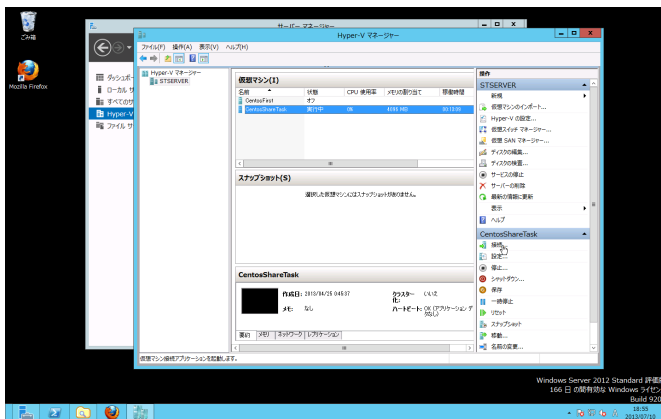


図 2.6.20 仮想マシンの接続画面

2. 選択した仮想マシンが正常に接続されコンソール画面が表示されるのを確認します。

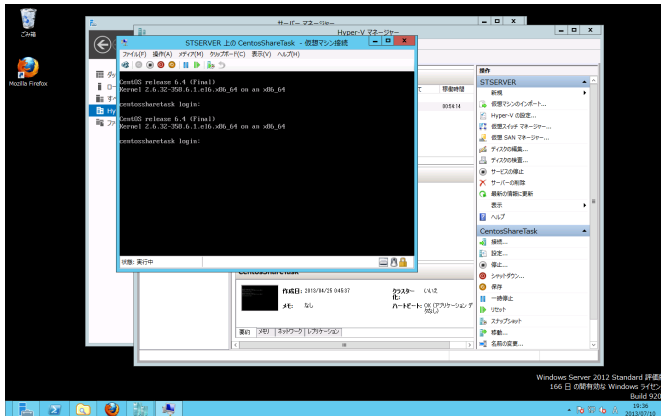


図 2.6.21 仮想マシンのコンソール画面

2.6.6 仮想マシンのネットワーク設定

仮想マシンへの接続が終了したら、仮想マシンへログインしてネットワークの設定を行います。

1. 仮想マシンへ接続するとログインシェルが起動するので、以下の login と password を入力してログインします。

login: setup

password: sharetask1234

2. ログインに成功すると、ログインシェルが起動して入力待ちになります。

*** System Setup Menu ***

- 1) Network Configuration
- 2) Change Password
- 3) Enable/Disable Webmin (https://host_name:10000/)
status: enabled
- 0) Quit

Select menu number >

3. 1) を選択して, ネットワーク関連の設定を行います.

*** System Setup Menu ***

- 1) Network Configuration
- 2) Change Password
- 3) Enable/Disable Webmin (https://host_name:10000/)
status: enabled
- 0) Quit

Select menu number > 1

4. ネットワークの設定画面が表示されるので, [デバイスの設定] を選択します.



図 2.6.22 ネットワークの設定画面

5. 対象のデバイスを設定します. ここでは, eth0 を選択します.



図 2.6.23 デバイスの設定画面

6. ネットワーク関連の設定を行います.DHCP の有効/無効, IP アドレス, サブネットマスクなどの値を入力し, OK を選択します.



図 2.6.24 ネットワークの設定画面

7. 次に DNS の設定を行う. メニューから DNS 設定を選択します.



図 2.6.25 DNS の設定画面

8. DNS サーバーの IP アドレスの設定し, OK を選択します.

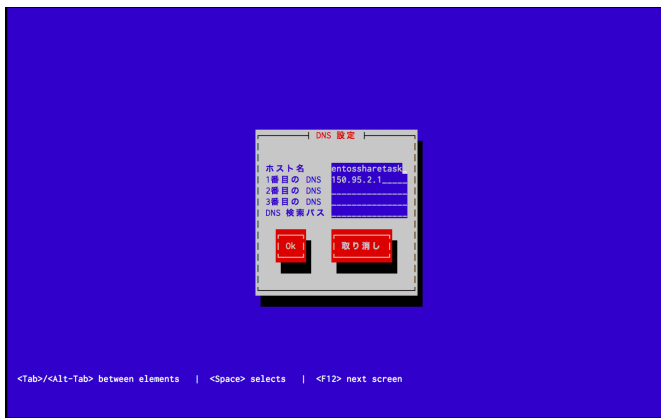


図 2.6.26 DNS サーバーの IP アドレス設定画面

9. デバイスと DNS の設定が完了したら, [保存して終了] を選択します.



図 2.6.27 DNS の設定画面

10. 保存するとシェルに戻るので、必要に応じてユーザーのパスワードを変更します。変更する場合は、メニューから 2) を選択します。

```
*** System Setup Menu ***
```

- 1) Network Configuration
- 2) Change Password
- 3) Enable/Disable Webmin (https://host_name:10000/)
 status: enabled
- 0) Quit

```
Select menu number > 2
```

11. 2) を選択すると、パスワード変更のメニューが表示されます。

```
*** Change Password ***
```

- 1) root
- 2) sharetask
- 3) setup
- 0) quit

```
Select account >
```

12. 変更したいユーザーの番号を選択します。ここでは sharetask ユーザーのパスワードを変更するので、2 を選択します。

```
*** Change Password ***
```

- 1) root
- 2) sharetask
- 3) setup
- 0) quit

```
Select account > 2
```

13. 新しいパスワードを入力します。

```
*** Change Password ***
```

- 1) root

2) sharetask

3) setup

0) quit

Select account > 2

ユーザー sharetask のパスワードを変更。

新しいパスワード:

14. 新しいパスワード（確認用）を再入力します。

***** Change Password *****

1) root

2) sharetask

3) setup

0) quit

Select account > 2

ユーザー sharetask のパスワードを変更。

新しいパスワード:

新しいパスワードを再入力してください:

15. これで新しいパスワードが設定されます。
16. ブラウザから <http://hostname/>へアクセスし,ShareTask のログイン画面が表示されればネットワークの設定は完了しています。

2.7 トラブルシューティング

1. 仮想マシンへ ping は通るが ssh や http で接続できない
ssh や http で以下の様なエラーが起きて接続できない場合は、ネットワークが正しく認識されていない。

```
ssh: connect to host xxx.xxx.xxx.xxx port xxxxx: No route to host
```

[解決策]

以下のコマンド実行して eth0 が存在しない事を確認する。

```
/sbin/ifconfig -a
```

以下のコマンドを実行し, NAME=" eth0" が含まれる行全て削除, その後 NAME=" eth1" を NAME=" eth0" に書き換えて再起動する.

```
# vi /etc/udev/rules.d/70-persistent-net.rules  
# reboot
```

再起動が完了したら, 以下のコマンドを実行し, eth0 の MAC アドレスをメモする.

```
# ifconfig -a
```

メモした MAC アドレスを以下のコマンドで HWADDR 欄を上書きする.

```
# vi /etc/sysconfig/network-scripts/ifcfg-eth0
```

eth0 を起動する.

```
# ifup eth0
```